



世界に希望を生み出そう

WEEKLY REPORT

高松東ロータリークラブ 週報

会長:藤井 武志 幹事:藤野 譲二



高松東ロータリークラブ

プログラムのご案内

今週

(創立第2614回) 令和05年10月17日

卓話「米山記念奨学会について」

米山奨学委員会
榎塚 正福 君

次週

(創立第2615回) 令和05年10月24日

「ガバナー補佐訪問」

クラブ管理運営委員会

前週例会レポート

創立第2613回例会出席報告 令和05年10月03日

前々回の訂正	会員総数	出席免除会員
09/19 休会	46名	(a)0名 (b)9名
出席計算に用いた会員数	出席会員数	出席率
44名	34名	77.27%

会長報告

先日時間が空いた時に喫茶店に行きました。

その喫茶店は本がたくさん置いてあってたまたま目についたのが高松空襲という本でした。

後の脇市長が書かれた本ですが、当時被災された人々の実話がたくさん書かれていました。

全部読むことはできませんでしたが、当時の悲惨な状況などが克明に記されていました。

高松空襲は昭和20年7月4日、116機のB-29が高松市の上空に飛来し午前2時56分から同4時42分まで、焼夷弾などの爆撃を続け、市街地の約80%が焦土と化し、1359人が死亡しました。当時高松市を攻撃の目標と選んだ理由が、

- ・本州につながる鉄道連絡船の終点、四国の主要鉄道・道路網の集中点であり、備讃瀬戸の支配的位置を占める
- ・香川県の県都である
- ・軍需産業の主要地である
- ・倉敷飛行場工場・榎田鉄工所・化学工場・爆薬製造設備・石油精製設備を有する
- ・人口密度が高い。(1940年当時、人口11万1207人、面積53.02km²)
- ・効果的対空砲火装置を持っていない

という理由だったそうです。

高松でもこんな悲惨な事があったことを記憶に残していかなければと思いました。